

養成講座を受講しようと 決めた初心を忘れずに！

五十嵐 文宏さん

会社名：某金融機関100%子会社

役 職：社員相談員

資格等：産業カウンセラー・キャリアコンサルタント

【受講のきっかけ】

15年ほど前、当時勤務先で拠点長をしていた私は、部下と接するたびに「なぜ、こんなに簡単に心が折れてしまうのだろうか？」と心を痛めることが多くなっていました。その頃、さらに10年ほど前、小学校でPTAに関わっていた時に、それまで気づかずにいた子どもの心の問題に触れたことも思い出し、若い社員や子どもたちのために自分にできることはないか、と思うようになったのがカウンセリングに興味を持ったきっかけです。

本部に異動になり、当時の「健康相談室長」（私が30歳の頃の直属上司）に異動の挨拶がてら、そのような思いを話したところ「産業カウンセラーというのがあるよ」と聞き、すぐに養成講座を申込み、受講しました。2007年のことです。

【資格取得後の活動状況】

翌2008年（46歳）に試験に合格、資格登録しましたが、会社業務の中で資格を活かすことはありませんでした。それでも、若い社員の力になりたいという思いは変わることなく、年会費を払い続け、養成講座時代の仲間ともゆるくつながっていたのです。

2012年5月現職場に転籍。以降、総務部、企画部に籍を置き、社内コミュニケーション活性化など「職場環境改善」に取り組んでいました。資格を活かしたいと本気で思うようになったのは、55歳を過ぎて漠然と60歳以降の人生を考えるようになってからです。産業カウンセラーとして「後輩たちの力になれるような業務ができないか」と具体的なイメージを探しながら、協会の研修や講座をできるところから受講するようになりました。2019年、58歳になったときには、資格を活かしキャリアも含めて同じような方々のためになりたいと具体的なイメージを持ち、「60歳になったら、退職して産業カウンセラーの仕事をしていく」と社内で公言するようになっていました。



2019年、関東での全国大会で偶然再会した養成講座受講時の指導者に背中を押され、キャリアコンサルタントの資格を取得したときには、60歳まで1年を切っていました。

社内でメンタル不調者や入社3年目までの退職者が目立ち始めてきたことに対し、経営レベルで手当が必要と感じていたところに、60歳退職を公言していることが伝わり、「60歳以降、嘱託社員として社員向けの相談業務に専念してほしい」と要請され、これまでの集団向け職場環境改善アプローチから、今は社員一人ひとりと向き合い、雑談も含めてメンタル不調者の予防や社内外のキャリアなどを中心にあらゆる相談に対応する業務に専念し、実務経験を積んでいます。65歳の退職時には「相談室が立ち上がり、人を大切にしてくれる会社だな～と感じる社員が今以上に少しでも増えていること」を思い描きながら…

【これからの目標】

産業カウンセラーの資格は、資格登録をしても専門の業務をしていなければ「資格を活かせていない」と感じている方が少なくないと思いますが、養成講座で学んだ「傾聴」は、仕事でも私生活でも人と接するときに無意識のうちに活かされていたのではないかと感じています。

「一生モノのスキル」とも言われる産業カウンセラーという資格。大切なのはまず、養成講座を受講した当時の初心を忘れないこと。そして、協会や養成講座の仲間との「ゆるやかなつながり」を持ち続けることだと、今の私は感じています。初心の頃のエネルギーを元に積極的に動くことで、仕事につながる出会いや新たなきっかけが得られる、と実感しているからです。まさに「キャリアは偶然が8割」です。

現在、支部の相談員基礎講座を受講中です。これからも必要とされる人にとって必要な存在であり続けられるように地道な学びを続けていきたいと思っています。